

北海道町村議会議長会主催
議員研修会

安中 経人

講演

「今後の日本経済の展望」

講師 経済評論家

内橋 克人 氏

内橋氏は長く新聞記者を経験してきた中、鋭い舌鋒から今回の東日本大震災における災害復旧の政府対応の後れ、復興プロセスにおける具体的方針が阪神淡路大震災の教訓が生かされていないこと。加えて人災と言える原発事故復旧対策の迷走が大きいことを指摘していた。ただ、この原子力政策は、50年近く政権を維持してきた前政権下の政策であり、現政権に全ての責任を負わせるわけではない。

特に、原発政策には強い警鐘を促し、国が合意なきコンセンサスを持って進めてきた結果であることや科学の国のドン・キホーテ、原発で生活を得る環境、都市と地方の関係無視など、放射能汚染の終息まで何十年もの歳月を要する責任をたれが取るかなど指摘し、原発政策の転換を求め

た内容であった。このことによる国力の低下、経済の国際競争力低下が招く損失についても述べていた、日本経済の失速はバブル経済後の「失われた20年」として長く尾を引いているが反面企業は内部留保資金200兆円保有し、ここ2年で海外に流失している資金は約17兆8,000億円があり、派遣切り（潜在的失業者1,200万人政府発表と大きく違う）の中、連結利益が膨大になっていること、日本企業が外資に買収されていることなどにより日本企業、経済が国際的に孤立化し経済過疎化していくことへの懸念を警鐘していた。今後の方策としてアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、TVA計画、EU連合内のフランス、ドイツ、イタリアなどの地方自治体の第2次大戦後の復興の例をあげ、その時に必要な人材として、地方議員の役割が重要な立場にあり、その存在を示さなければならぬと訴えていた。地方議員の奮起を促す中身の濃い講演であった。

中空知ふるさと市町村圏
議員交流会

青田 良一

開催日 7月7日

開催地 芦別市

講演

「放送を通して見た観光」

講師

ラジオパーソナリティ

ようへい（堀川陽平）氏

ようへい氏は芦別市で生まれ、高校卒業後落語家を目指し上京、平成13年には二ツ目昇進、体調を崩し平成18年に帰道、現在はラジオのリポーターやパーソナリティとして芦別市をはじめ各地の特産品、観光地の紹介を行っている。芦別で生まれ暮らしたのではと反省している。それぞれの市町村に誇れるものがあるがそれらは十分にコミニケーションがされていないと訴えた。観光は人と人との結びつきであり、そのお手伝いをしながら地域の発展に貢献したいと結んだ。

『私たちが議会だよりを担当します』

4月の改選後、5月6日に初議会が開かれ前回同様議会広報特別委員会を設置することが決まり、私たち5名が選ばれました。これからは少しでも多くの皆さんに読んでいただけるよう、紙面の工夫、内容の充実が心掛けますので、よろしくお願いいたします。



安中経人 笹木正文 西内陽美
青田良一 山田秀明

編集後記

4月の末、福島の叔父が天国へ旅立った。震災のため交通網の復旧が遅れ、止む無く後日墓前にお別れをしに行くことにした。叔父は数回本町を訪れた。ジンギスカンと野わさびを好み、町の歴史にも関心を持ち、僅か百年で災害被災者が困難を克服し、団結力とくじけない強い意志で築いた町を誉めた。そして私が良い町で暮れていることを喜んでくれた。過去に行つた福島県飯舘村は村民が生き生きと暮れており、ぬくもりを感じる地であった。原発により全村が余儀なく移住させられたが、東北人の粘り強さを持つてかならず光明を見いだすだろう。本町は今後も震災被災者を支援していくと信じている。なぜなら新十津川町は災害と共に歩んだ歴史ある町なのだから。

【議会広報特別委員会】

(青田)

委員長 青田 良一
副委員長 山田 秀明
委員 笹木 正文
安中 経人
西内 陽美